

平成26年度 学校自己評価システムシート ( 県立入間向陽高等学校 )

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人が主体的に取り組み実現する進路選択 4 保護者・中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 5名
	生徒 33名
	事務局 (教職員) 8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標					年度評価 (1月22日 現在)		実施日 平成27年1月29日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>・授業態度は、大変落ち着いており、集中して課題等にも取り組んでいる。継続して行っているアンケート結果より、半数以上の生徒が授業の理解はできていると回答しており、この傾向に特に大きな変化は見られない。一方教員側も、生徒の実態を踏まえ理解を深めるため工夫や生徒の意欲を引き出す授業を実践している。</p> <p>・ 考査前の学習については、大半の生徒がよく取り組んでいる。しかしながら、予習・復習など日常的な学習については、不足している生徒が多く、授業の「受身」的傾向は、大きくは変わっていない。</p> <p>・進路意識は、徐々に高まりつつあるといえる。特に進路に関係する科目選択については、進路と結び付けさせながら、学習意欲の向上にも結び付けていくことが大切になってくる。</p>	基礎的・基本的事項を重視した授業改善の取り組み	<p>・生徒・教職員アンケート結果を踏まえた興味・関心を持たせる授業改善と生徒の意識改革。</p> <p>・家庭学習習慣化のための宿題・課題等の生徒への提示。また、具体的な予習・復習などの勉強の仕方についての情報の提供。長期休業中の課題や、その成果を確認するためのテストを通じた自宅学習の喚起。</p> <p>・考査週間における勉強時間の確保及び補習補充授業の継続的確保。</p> <p>・科目選択にあたり、進路と結び付けられるような指導の工夫。</p>	<p>・生徒の授業アンケートの分析など職員研修を行い共通理解を深め課題を明確にすることができたか。</p> <p>・定期考査や長期休業明けのテストでの検証。</p> <p>・考査週間において勉強時間が確保できたか。</p> <p>・科目選択に関し、生徒へ適切な指導が行えたか。</p>	<p>・アンケート結果より授業の理解度は、「とても理解できる」「まあまあ理解できる」が全体の60%以上と増加している。授業のレベルについても「現状で十分」「もっと基本的な項目を中心にしてほしい」(86%)と圧倒的に多く、「基本的・基礎的事項を重視した授業改善の取り組み」は、生徒の現状にあったものとなっている。この結果については職員全体で確認し、共通理解を図った。</p> <p>・学習習慣については受け身的傾向は変わっていない。小テストや宿題の提示、補充授業などの日常的な取り組みとともに、宿題確認テストも継続して実施した。1年生には入学当初、「勉強の仕方」についてガイダンスを行った。アンケート結果よりテスト前の対策は日常的な学習と比較するとある程度は行われていると言える。</p> <p>・科目選択については、ガイダンスを行い、進路と結びつけた指導が実施できた。</p>	B	<p>・引き続き生徒へのアンケートを実施して、現状をよく分析し、職員間で共通理解を図っていくことが大切である。生徒の実態を踏まえ、それぞれが継続して授業改善に取り組んでいくことは基本となる。</p> <p>・課題となっている学習意欲の向上、自宅学習の喚起のための取り組みは、引き続き継続していく必要があるが、生徒自身が意欲を持って学習に取り組むことが、その核心である。そのために生徒が、定期考査前の勉強や長期休業中の宿題などにどのように取り組んでいるのか、その実態をよく分析し、その上で生徒への支援をしていく必要がある。</p> <p>・丁寧な選択科目のガイダンスを行い、科目選択を通して、自らの進路を考えることにより、更なる学習意欲の向上につながるよう指導していくことが今後とも重要である。</p>	<p>・前回の「よくする会」を受けて先生方の声かけと生徒の積極的な発言もできており、改善に向けての努力はなされている。今後も生徒と教員双方でよりよい授業を目指していきたい。</p> <p>・学習は、共働が大切なことであり、できる子ができない子に教えることでより理解が深まることもあり、授業でも「問題解決型」のグループ学習等でこのような関係づくりも必要であろう。</p> <p>・予習は必要であるが、予習をしように思えることを見つけることが大切である。</p>
2	<p>・生徒たちは落ち着いた学校生活を送っている。服装規定も概ね守られており挨拶もよくできる。地域や中学校からも基本的生活習慣について高い評価を得ている。</p> <p>・新入生歓迎会、体育祭、向陽祭、三</p>	生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る。	<p>・教員間の共通理解と協力体制の確立 (特に服装指導・挨拶励行、時間厳守について)</p> <p>・朝の立哨指導、授業開始時の巡回の継続</p> <p>・定期的な頭髪服装指導の実施</p> <p>・社会生活におけるマナー向上の指導の一つとして情報セキュリティ研修会を企画する。</p> <p>・HRを基礎として生徒会</p>	<p>・共通理解と協力体制をつくることができたか</p> <p>・立哨指導、巡回指導が継続的に実施できたか</p> <p>・教員の共通理解のもと、生徒との信頼関係に基づいた指導ができたか。</p> <p>・効果的に研修会が実施できたか。</p> <p>・生徒会活動が全校生徒</p>	<p>・生徒の情報を共有するようにつとめ、生徒指導部・担任の連携を強化した。</p> <p>・日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は全教職員の協力を得て継続し、落ち着いた教育環境を維持できた。</p> <p>・新たな問題としてインターネット関係の問題がでてきたが、研修会を実施することで問題の拡大を防止できた</p> <p>・前年度の総括を受けて「全校生徒の参加型」の行事として取り組むこ</p>	A	<p>・落ち着いた教育環境を維持するため全職員の協力体制を維持させていくことが重要である。</p> <p>・社会生活におけるマナーの向上をはかる指導を継続させていくことが重要である。</p> <p>・SNS関連の問題がまだ続いている。研修会を定期的に関き注意しているが問題が完全にはなくなっていないので指導を継続し問題の根絶をはかっていきたい。</p> <p>・生徒会が中心になり原案作り、運営を行</p>	<p>落ち着きの無い生徒も少数いるが、ほとんどの生徒はしっかりしている。挨拶が今以上に自然にできるような雰囲気になるよう自覚したい。SNSの問題は、一部のことであるが、学校や個人が特定されるため影響力が大きい。研修会などで自己啓発したい。生徒自身の自己分析がすばらしい。当事者意識を持てることが大切である。</p> <p>・行事のクオリティが高いのに驚いた。参加型の行事では、みんなが少し</p>

<p>年生を送る会の企画・立案・運営を生徒が組織的に運営するスタイルが定着している。また、HRに呼びかけ、全校生徒が積極的にかかわる「参加型の行事づくりは、全校生徒に浸透している。生徒アンケートでも「向陽高校の一番の魅力」について「行事が盛んである」が第1位となるなど行事への期待が依然として高い。</p> <p>・生徒アンケートを受けて、食堂との協議を行うなど、生活環境を向上させていくための取り組みができてきている。</p> <p>・部活動が盛んで84%の生徒が3年間部活動を継続している。</p>		<p>本部・各委員会が論議を深め、組織的な運営を推進。</p> <p>・アンケートや生徒総会での意見を踏まえて、生徒会として関係部署と協議できる機会の推進</p> <p>・意欲、向上心を高める部活動の推進とそのため環境整備の推進</p>	<p>の参加を視野に入れて原案作成、提案、実施を組織的に運営できたか。</p> <p>・生徒の意見を踏まえて協議をもつことができたか。</p> <p>・部活動加入率の維持向上ができたか。</p>	<p>とで全校生徒を視野に入れることを具体化してきた。3年生を送る会では、1. 2年生による合唱に取り組み、体育祭については、生徒会主催行事として体育祭実行委員会で運営し、クラスの団結を強めた。向陽祭についても各参加団体が準備を工夫し、各クラスが企画を盛り上げた。</p> <p>・学食との協議を重ねるなど生活環境を向上させるための取り組みもできた。</p> <p>・今年度も壮行会を行った。今年度も昨年度同様加入率は80%を越えている。昨年に引き続き、全校をあげての部活動加入率の向上を目指す意識を確立した。</p>		<p>い「参加型」で行事を創ることはとても大切なことである。「参加型」を意識することは、将来社会に出ても大事なことになるのでしっかり引き継いで欲しい</p> <p>・生徒アンケートを行い学食と協議を重ねた結果、さらなるメニューの改善や、昇降口への掲示板の設置など利用を促す取り組みができた。これを契機にしてさらに自治的な取り組みへの関心を広げて欲しい。</p> <p>・部活動の条件整備の要望に答えるように、部活動予算に配慮をして、生徒会予算ではまかなえない部分を、引き続き、PTAに協力を求めたい。</p> <p>・食堂と話し合いで生徒の要望を基にしたやりとりを通してどんどん改善が進んでいる。地場産の材料を使ったオリジナルメニューも開発中で読売新聞にも取り上げられ向陽高校のアピールにもなっている。引き続き楽しみながら利用者を増やすなど改善に取り組みたい。</p>
<p><b>3</b></p> <p>・進路について真剣に考えている生徒が多いが、さらに高校卒業後の進路先について知識、理解を深めさせ、具体的な進路の目標を持たせたい。</p> <p>・生徒自らが進路に関しての情報収集が可能となるよう、1年次から進路状況提供に努める必要がある。</p> <p>・進路に対して高い目標を持つ生徒が増えてきているが、受験準備をずるのが遅い傾向にある。受験校指導などを充実させていく必要がある。</p> <p>・進路選択については、保護者へ情報をさらに連携を強めていきたい。</p>	<p>個々の生徒が主体的に進路選択に取組み、目標実現する進路指導</p>	<p>・進路 HR、上級学校訪問、分野別ガイダンスを通して進路について知識、理解を深めさせ、具体的進路について早くから考えさせる。</p> <p>・進路指導室や進路情報誌を生徒が活用できるよう「進路だより」等で情報を生徒に伝達する。</p> <p>・情報機器やインターネットサービスなどを利用できるような環境を整備する。</p> <p>・実力テストを毎学期実施、成績表を配布することで自分の学力歌津レベルを把握させ進路目標実現の目安とする。</p> <p>・実力テスト、校内校外模試の実施時期・内容・方法等を見直す。</p> <p>・進路だよりの配布、3者面談、保護者会を通して保護者にも情報提供を伝え、連携を密にする。」</p>	<p>・進路行事、進路 HR等を通じて進路への知識、理解が深まったか。</p> <p>・進路指導室や進路情報誌の活用は増えたか。</p> <p>・教員の情報環境を整備できたか。</p> <p>・成績票の配布により生徒に学力到達レベル、目標を認識させることができたか。</p> <p>・実力テスト・模試の実施について、学力向上のための検討見直しできたか。</p> <p>・進路保護者会、進路だよりの発行、配布による情報伝達ができたか。</p>	<p>・進路ガイダンス、進路見学会を行うことで進路意識が高まりオープンキャンパス参加者が増加した。</p> <p>・各教室へ配布した進路情報誌は、あまり利用されていない。卒業生の残した受験報告書はほとんどの生徒が活用していた。進路室に生徒用パソコンを1台設置。</p> <p>・ファインシステムを30台導入、担任全員使えるようにした。利用方法の研修会を行った。</p> <p>・実力テスト、宿題確認テストにおいて個人票を配布した。</p> <p>・従来の実力診断テストに変え、スタデイサポートを導入した。学習到達レベルに加え、進路意識の確認もでき有効であった。模試は1, 2年でやや参加者が増えた。進学補講は3年を中心に多くの生徒が参加した。</p> <p>・1, 2年保護者会は2月に実施予定。進路便りは1月まで5号発行。</p>	<p><b>B</b></p>	<p>・進路見学会を定着させたい。仕事についての知識を深めさせるため、職業教育を進めていく必要がある。</p> <p>・どんな資料が生徒に必要なか検討したい。生徒が進路について検索できるようパソコンの台数は増やしていきたい。</p> <p>・データ蓄積のある2年生で面談資料等活用された。更に利用を進めていきたい。</p> <p>・生徒が進路の目標を設定し、家庭学習に励めるよう実力テスト後のサポートも必要である。</p> <p>・実力テストでは事前に配布される冊子等を利用し、担任や教科担当と連携して前向きに取り組ませることが重要である。模試の受験は部活動顧問にも協力してもらい、参加する生徒を増やしたい。</p> <p>・進路保護者会。進路便りは、保護者や生徒の要望を分析して中身を充実させ、保護者、生徒に的確な情報が伝わるようにしていく。</p> <p>・進路選択について動き出すのに学校見学会や進路ガイダンスでの模擬授業、オープンキャンパスへの参加が役立った。とりわけ、身近にいる進路の決まった3年生から体験談を聞いたことは役に立った。これからも続けて欲しい。</p> <p>・部活加入率が80%を超える学校として進路行事に参加できる条件整備を是非行って欲しい。2年生でも3年生の体験談は、いいと思う。</p> <p>・職業教育ということで現場で働く人の話を聞く機会を持つということであるが、必要な企画だと思う。</p>
<p><b>4</b></p> <p>・PTA・後援会の行事は、PTA役員会・理事会が中心となり積極的な活動が行われている。昨年度新たに取組んだ体育祭やマラソン大会の給水支援は生徒の活動に直接関わることができ、双方で好評であった。</p> <p>正門前花壇の花植えと共に今年度も継続していく。また、PTAが体育祭、向陽祭 DVDを作成し上映するなど子ども理解を深める取り組みも行われている。さらに役員以外の方のPTA活動へのかかわりを広げていくことが課題である。</p> <p>・向陽高校をよくする会（学校評価懇話会）での教員、生徒、保護者、地域の意見交換は、それぞれの当事者性を持った内容で行われ、生徒の成長を励ます教育的な場として機能している。また、学校の現状を多面的に捉え、相互理解が深まる場となっている。</p>	<p>保護者と連携した地域に開かれた学校づくりの推進</p>	<p>・本部役員・各委員会の委員長と委員会担当の教員との連絡・協議を密にし、生徒理解を深めた学校の実情に基づいた取り組みとなるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p> <p>・引き続き生徒を成長させることを中心に意見交換を行うとともに学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。</p> <p>・事前に協議内容について論点整理を行い、当日の進行が円滑に行えるよう取り組む。</p>	<p>・本部・各委員会の計画立案に、その委員会の理事と委員会担当教員が組織的にかかわることができたか。</p> <p>・引き続き生徒要望アンケートに取り組み、向陽高校をよくする会へ生徒の取組みが分かる情報を報告し、意見交換の内容がそれぞれ生徒、保護者、教職員に還元され、共通理解を深める取組みが行われたか。</p> <p>・それぞれ事前に参加者と打ち合わせを行い論点整理ができたか。</p>	<p>・本部委員会と担当教員が連絡を取り合い、計画から運営まで概ね順調に行うことができた。</p> <p>体育祭、マラソン大会での給水活動を昨年に引き続き行い、生徒からも好評だった。部活動の生徒の協力もあり、ゴミの回収もスムーズだった。</p> <p>花植えは、生活委員会が中心となり、参加者が増え、交流の場としても有意義であった。</p> <p>・生徒要望アンケートの分析に基づき、意見交換を行った。意見交換が授業、進路、行事、施設設備にまで及び学校の現状について共通理解を深め、成果と課題を共有することができた。またPTA作成のDVDも上映され、学校関係者の学校参加が促進されている。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>昨年度から始めた給水活動や花植えは今年度続けたことで、定着し、生徒理解にもつながっている。今後も生徒と直接かかわる取組みを続け、PTA行事企画を生徒理解に役立つものに深めたい。</p> <p>・PTA授業公開を学校説明会と同日程で午後に開催し、PTAの方に受付等協力していただいて本校のアピールにもなったが、参加人数は、減少してしまった。授業公開の参加者減少については次年度の課題として改善していく。</p> <p>・生徒アンケートの分析に基づき意見交換を続けることで学校の現状と変化を考えることができていく。そのため、生徒理解を深める貴重な場となっている。生徒会は、事前準備として模擬討論も行っている。PTAも役員会等で報告も行われている。今後も意見交換がよりかみ合ったものとなるよう丁寧な事前準備が必要である。</p> <p>・花植えや給水活動など生徒に直接かかわる行事は、継続していきたい。部活動が活発な学校であるので、部活動を視察して何らかの予算援助を検討したい。</p> <p>・いつも感じるが、学校がとてもよい雰囲気であると思う。「向陽高校をよくする会」では、様々な情報がオープンにされて、きちんとした意見のキャッチボールができていく。生徒の意見がしっかりとまとめられて素晴らしい。こうした話し合いを通じて学校運営にも参加してきている。</p> <p>・傍聴の中央委員が各HRから出席しているのは生徒会がやっていることを全校生徒に広める上で大切なことだと思う。</p>